

東海第二 審査会合指摘事項に対する回答整理表(技術的能力1.0.2(アクセスルート))

2017年10月13日
日本原子力発電株式会社

日付	番号	カテゴリ	資料の 該当箇所	コメント内容	対応 状況	回答
2017/10/5	103		審査会合SA回答 資料No91	可搬型設備用軽油タンクについて、地下水位を地表面に設定した場合の影響について、整理して提示すること。	今回ご説明	【審査会合SA回答資料No.103,1.0.2-73】 可搬型設備用軽油タンクはSs機能維持設備のため、浮き上がりが生じない設計とし、 設計方針について記載しました。
2017/10/5	104		審査会合SA回答 資料No91	T.P.+8m盤以上の範囲において、地下水を地表面に設定したことにより、浮き上がり等の影響を受けるものを定量的に整理して提示すること(2017/9/12審査会合での評価結果との差違を整理して提示すること)。	今回ご説明	【審査会合SA回答資料No.104,1.0.2-71,72,108~141】 前回条件(地下水位を観測記録の最高水位分布)から地表面に変更したことによる高台部及び高台以外の浮き上がり等の評価結果の比較を整理し、まとめました。
2017/10/5	105		審査会合SA回答 資料No91	T.P.+8m盤以上の範囲の浸出面と観測記録の差分が5.5mである根拠を整理して提示すること。	今回ご説明	【審査会合SA回答資料No.105,1.0.2-別紙41】 高台浸出面と観測記録の差分5.5mは 仮定として設定したものとし、地下水位については、施設設計の保守性を考慮し、地表面に設定しました。
2017/10/5	106		審査会合SA回答 資料No91別紙1 水源変更1.0.2別 紙9-8	西側淡水貯水設備(地下)からの送水手順及び時間成立性について、可搬型代替注水中型ポンプ2台並列運転の実現性も含めて、整理して提示すること。また、常設代替高圧電源装置置場からの地下トンネル内において、注水配管、電源ケーブル、軽油輸送配管等が共存ため、悪影響防止の観点からの設計について整理して提示すること。	今回ご説明	【審査会合SA回答資料No.106】 地下水源から中型ポンプにて送水する運用について整理し、有効性評価の成り立ちがあることを記載しました。 また、地下トンネル内にケーブル及び水並びに油配管が共存することに対して、悪影響防止を考慮した設計対応について整理しました。
2017/10/5	107		審査会合SA回答 資料No91参考	東 I サービス建屋の形状変更については、アクセスルート確保の観点から効果的な方法を検討すること。	今回ご説明	【審査会合SA回答資料No.107,1.0.2-別紙15-19】 東 I サービスで建屋の形状変更については、アクセスルートに影響を及ぼさないような構造物高さとなるようにします。